弥勒院本堂建造物調査報告書

１．所在　　宮代町字中 293

２．構造・大きさ

屋根　寄棟造りに寄棟造りを連結、萱葺

正面　8700cm

側面　4766cm

３．概要　　西光院の末寺で、寛政 2 年（1790）の「西光院建前図面並坪数等之進上書」では弥勒院の本堂と境内地に三島明神が見られる。西隣には弥勒院境内正蔵坊跡とも記されることから、以前には弥勒院の隣に正蔵坊があったことも分かる。また、西光院四世宥誉は寛永 14 年（1637）に西光院坊中の弥勒院から西光院に入ったとあるため（「西光院世代記」）、これより以前からあったことが分かる。

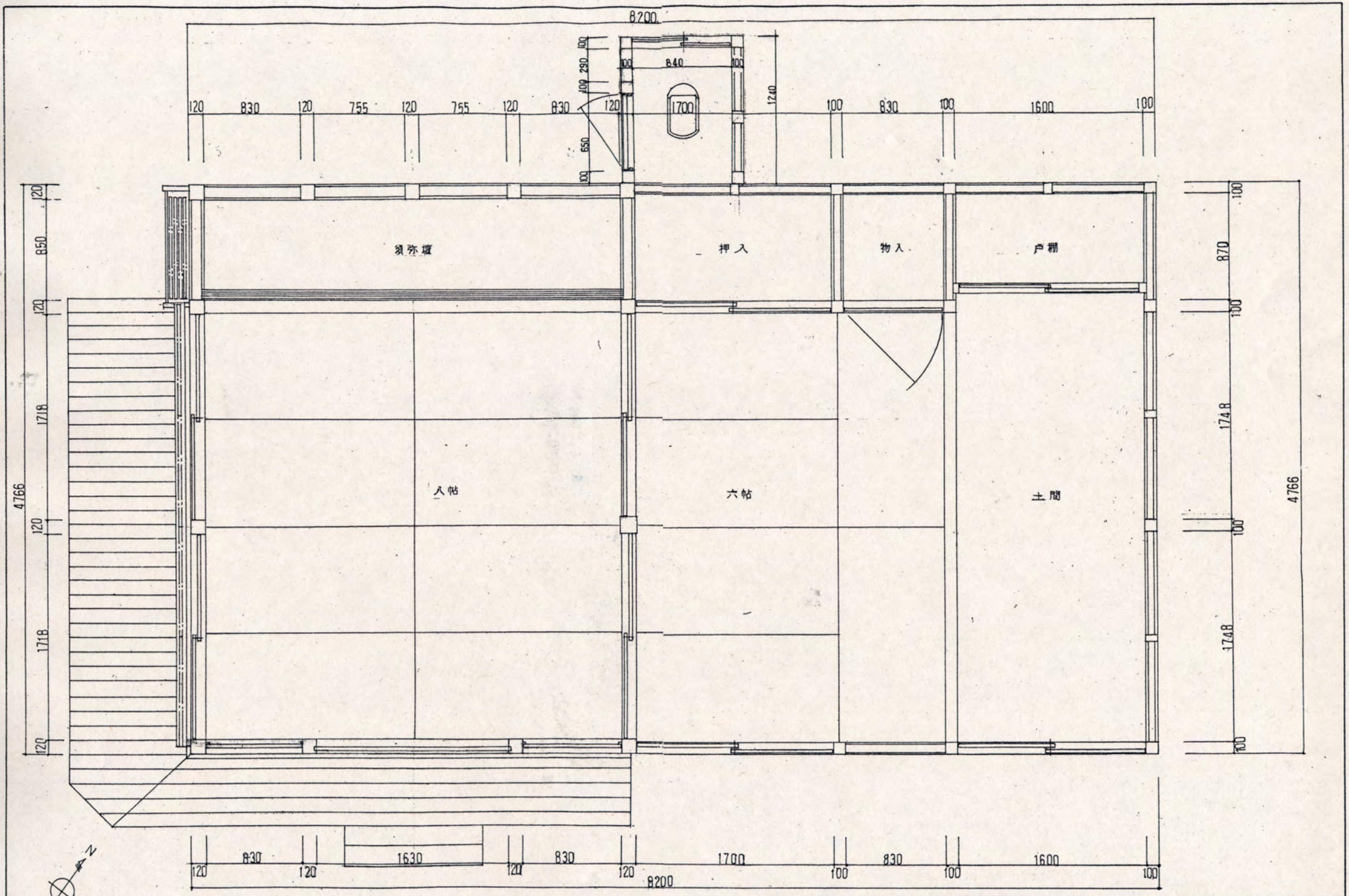
建物は恐らく江戸時代ものであろう。近年まで破損が著しい状況で残っていたが、平成 26 年頃に解体撤去した。この調査報告は平成 20 年 2 月 8 日に実施した建造物調査の報告を平成 28 年 9 月 11 日に纏めたものである。

弥勒院の本堂は大きく分け須弥壇と 8 畳間からなる建物と 6 畳間と土間からなる建物が連結する。元々は須弥壇と 8 畳間の寄棟造りの建物のみであったが、後に 6 畳間と土間の建物を増築したと推定される。縁側は現在、東側と南側のみであるが、増築した北側にもあった可能性がある。

４．建築年代　須弥壇と 8 畳の間は江戸時代の建物であった可能性が高い。増築部分については不明と言わざるをえない。増築部分は所謂庫裏に相当する部分といえる。

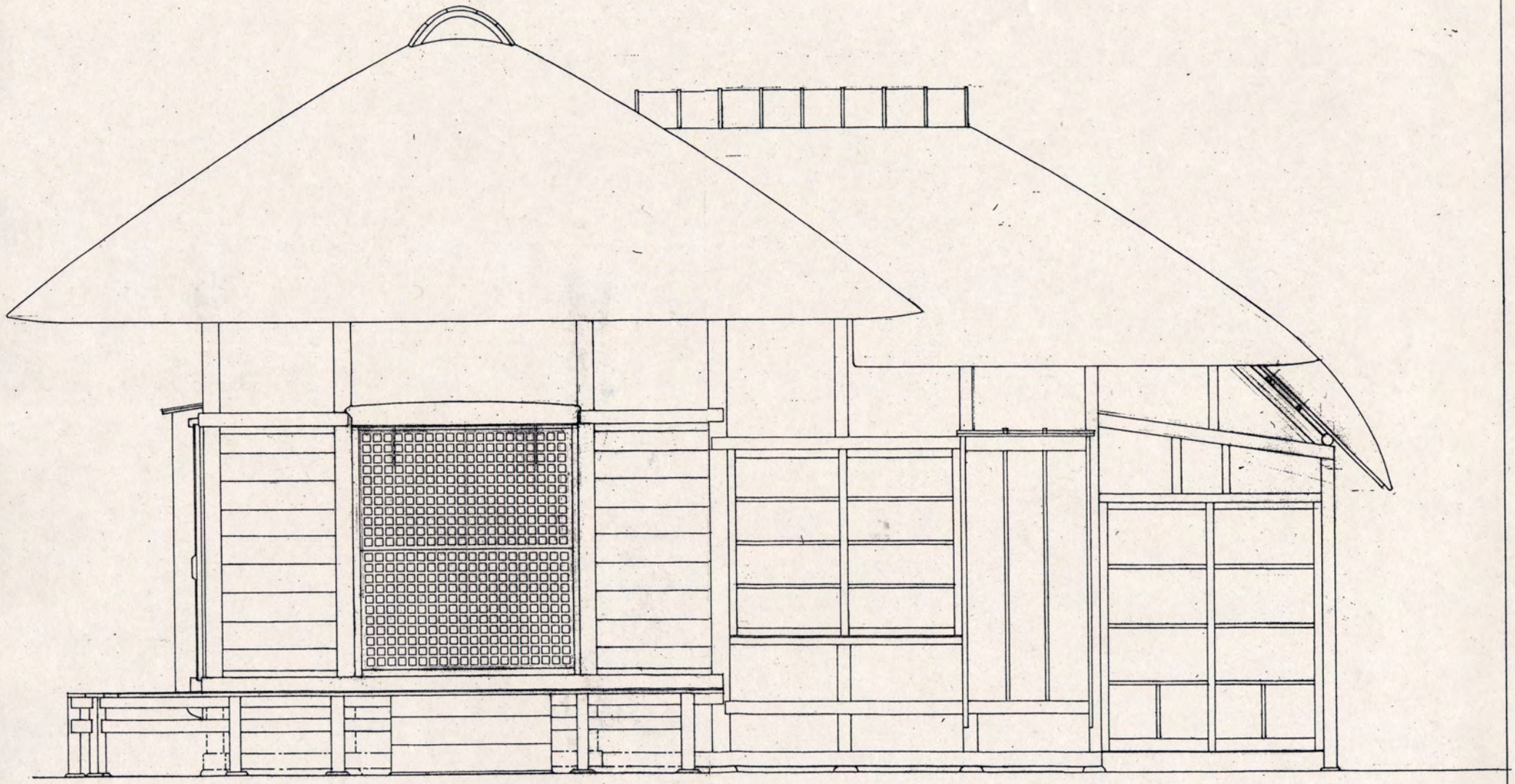
５．調査者　　青木秀雄、北川瑩

６．執筆者　　河井伸一



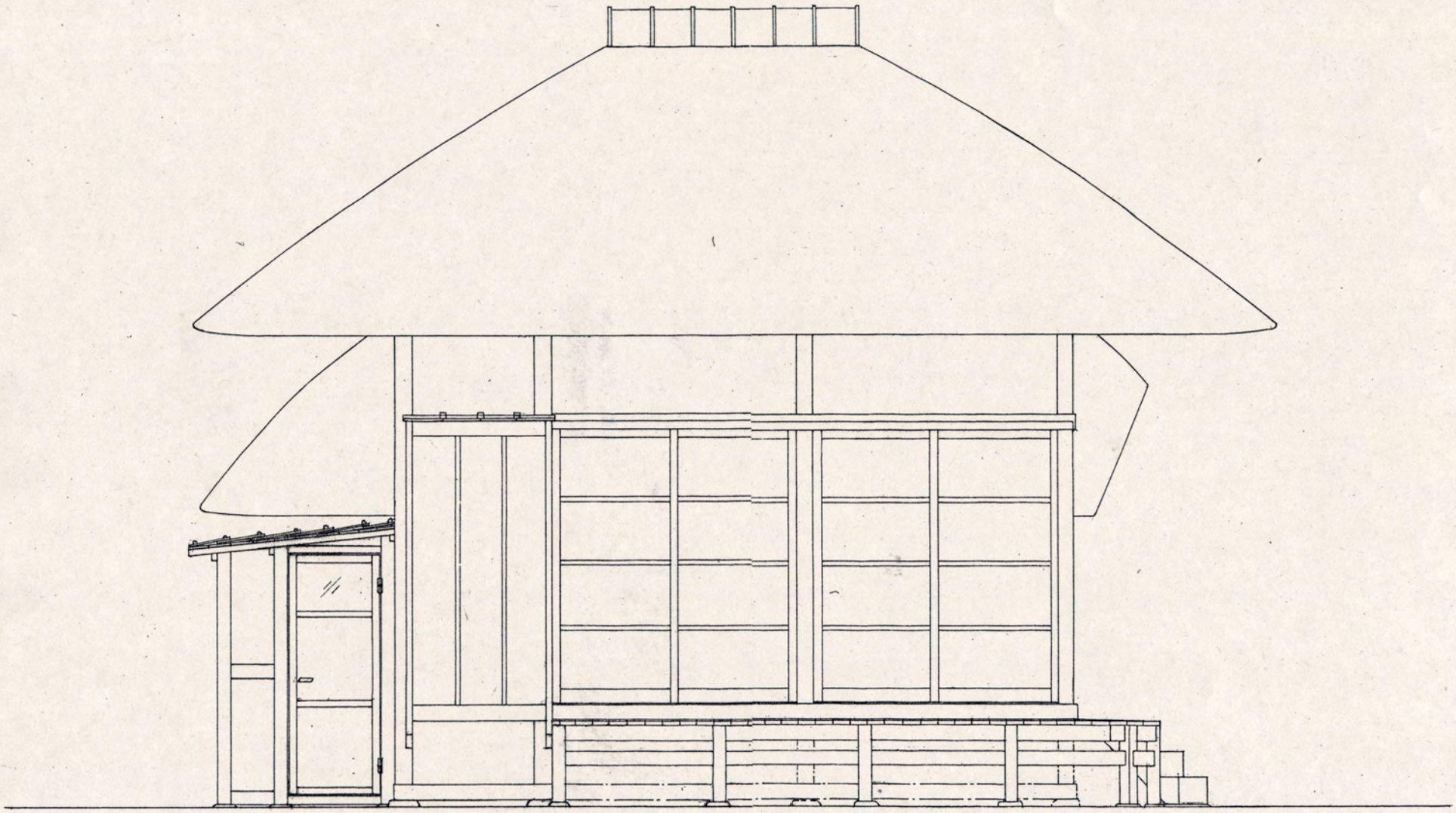
平面図

現場名		弥勒院			1
		縮尺	1/40		



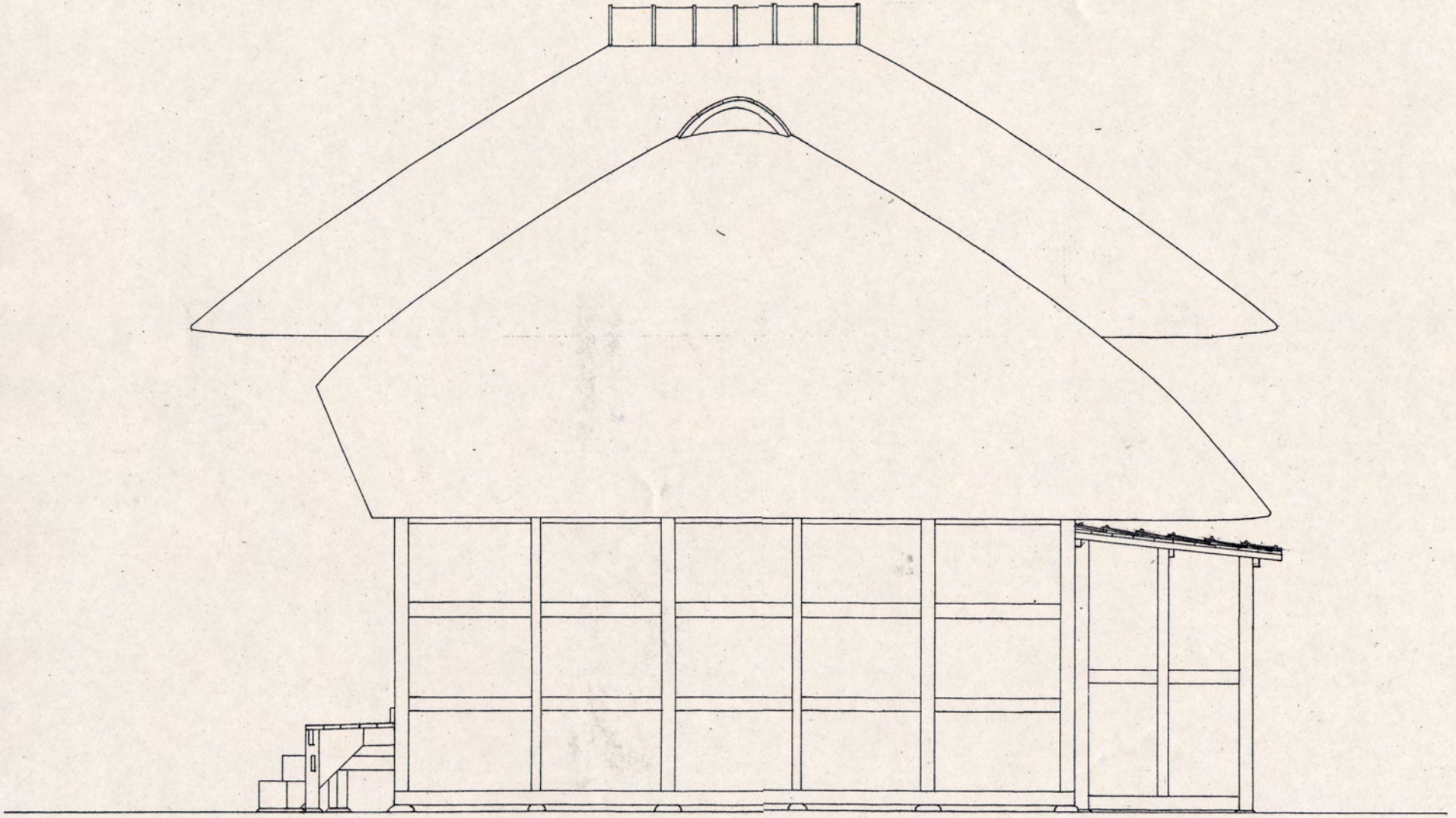
東面図

現場名	弥勒院		2.
	縮尺	1/40	



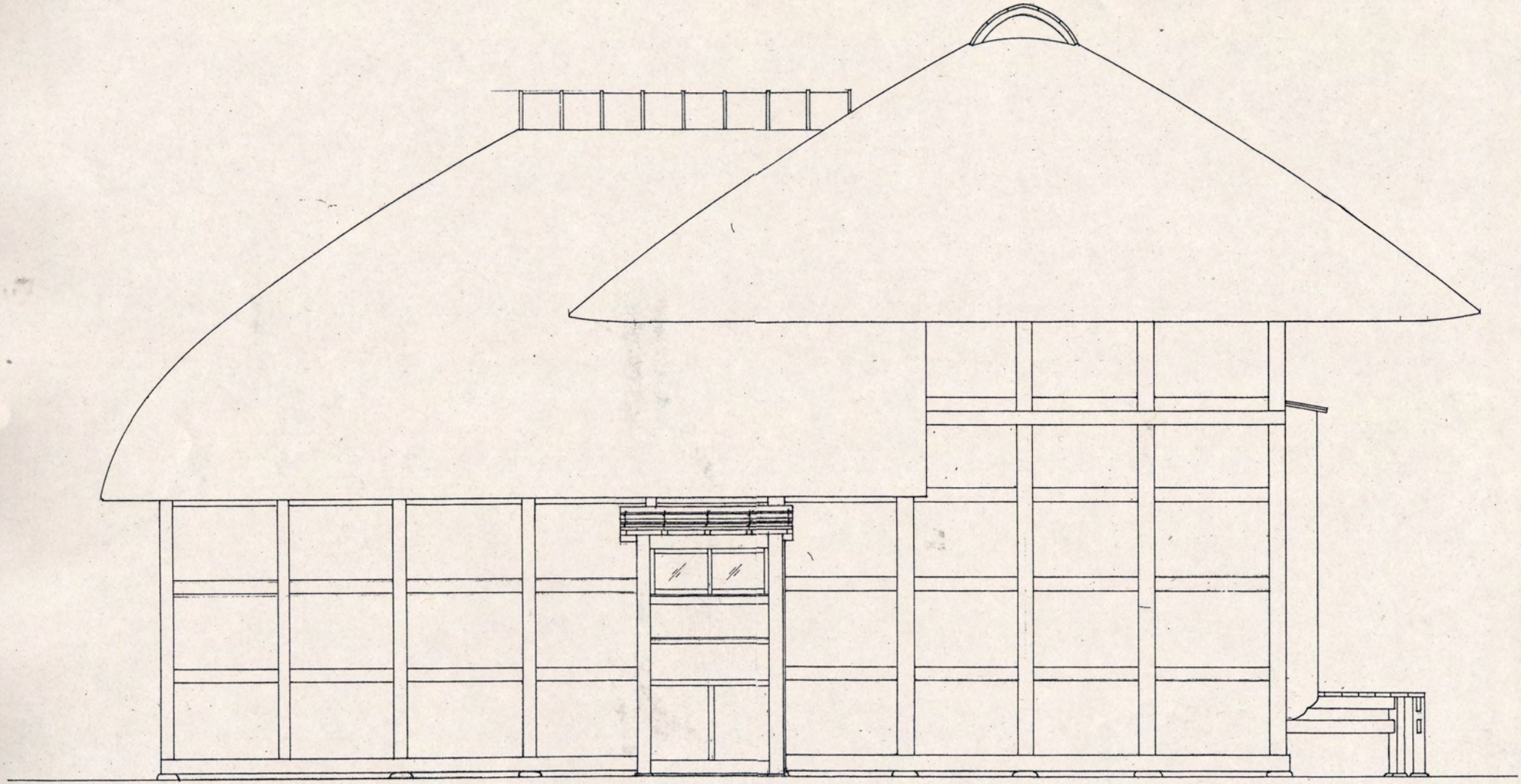
南面図

現場名	弥勒院		3
	縮尺	1/40	



北面図

現場名		弥勒院			4.
			縮尺	1/40	



西面図

現場名		弥勒院			5.
		縮尺 1/40			